

# 皆さんの声を町政に

## まちづくり懇談会

権原紀昭町長との「まちづくり懇談会」が、11月15・16・17日の日程で開かれました。町からの情報提供や参加者からの質問・意見などにお答えし、町民の皆さんと懇談しました。



懇談会には述べ61人の町民の皆さんが参加



### 各会場の参加人数

11月15日(水)	農村環境改善センター	14人
11月16日(木)	カルチャープラザ「Eki」	29人
11月17日(金)	南部公民館	18人

※紙面の都合上、懇談内容の一部のみを掲載しています。町ホームページで、懇談会の議事録や町からの情報提供資料を閲覧することができます。  
 トップページ→「行政・まちづくり」→「協働のまちづくり」

### 町ホームページ

**質疑** 町ホームページのトップページに「イベントカレンダー」が載っているが、内容がすごく少ない。一方、まちのニュースには、行われたイベントがたくさん掲載されている。今後イベントカレンダーに掲載してもらえないだろうか。ホームページが活用されているので入れてもらいたい。

**回答** 町内で行われるイベントなどは、多くの方に来てもらうことが必要と考えているので、早急に改善していきたい。

### ごみ分別

**質疑** ごみの分別で、布団が絞られて、いつまでもゴミボックスのところに置かれている。茶色の袋を縛り付ければ持つていっていただけるのか。

**回答** 布団など、袋に入らないものを縛って袋を付けても受け付けないことになっている。発見したときは環境政策課に連絡してほしい。袋に入らないものは、大型ごみとして回収する。

### 空家対策

**質疑** 空家が240件余りあることが、先日の連合町内会の会合でも話題になった。現在、所有者不明



### 情報提供内容

町からの情報提供として、担当課から次の6つの内容を説明しました。

- ①栗山町におけるこれまでの空家対策（建設水道課）
- ②空家の情報提供のご協力（建設水道課）
- ③がん予防（保健福祉課）
- ④出前型政策・施策説明会（経営企画課）
- ⑤弾道ミサイル発射・落下時の行動（総務課）
- ⑥くりやまキャッチボイス（総務課）



の空家があるのかどうか教えてください。

**回答** 法改正で、税情報を調査することができるようになり、かなり所有者を特定できています。しかし、中には相続されていない、税額が小さく免税点以下で課税がされておらず、実際に管理されている方がわからない空家もある。1割まではわからないが、所有者がつかめていないところもあるので、いろいろな方法を探り、所有者を把握して改善してもらおうよう取り組んでいきたい。

### 未収金

**質疑** 「くりやまきかいだよ収金」の中で、町内の未収金を増やすために、町ではどのような手立てをしているのか教えてください。

**回答** 税については、警察のOBなどを「納税指導員」として臨時採用し、戸別訪問、差し押さえなど、処分を行いながら収納率を向上させてきた。保育料や住宅使用料なども未収金があるが、各担当で同じように毎年、年度当初に収納計画を立て、電話や督促状による催促、個別訪問を行い

ながら未納対策に取り組んでいく。今後も引き続き力を入れていきたい。

### JR室蘭線

**質疑** 新聞やテレビなどでJR室蘭線が廃線になるのではという話を聞いた。バスに代替する話もある。わかっている範囲で状況を教えてください。

**回答** 報道のとおり、13区間が維持困難路線の対象となっており、その一つにJR室蘭線も入っている。地区ごとに論議を詰めていくが、JR北海道との論議はこれから。沿線自治体だけで維持していくことは無理がある。国鉄からの経過もあり、国と道と市町村で連携が必要。人口減もあり利用者も減っているが、今後のまちづくりを考えた場合、JRがあるのとないのとでは大きく違う。しっかりと将来展望に立った対策などを模索したい。

### 交通安全

**質疑** 交通安全協会の交通安全全講習会があった際に、点滅式の信号を正しく理解していない人が多いという話を聞いた。お互いの車が来ていることは認識しているが、意味がわからないので衝突事故になるケースがあるようだ。再度、安全確認の意味で広報での点滅式信号の正しい認識についてPRしたほうが良いのではないかと。

**回答** 警察署の情報では、一灯式信号機の設置数は全道で2番目に多いとのこと。警察署では、一灯式信号機の理解を深めてもらうために、啓発チラシを11月の町広報に折り込みました。今後、交通安全協会と検討していきたい。



# 今、問われる「鉄路」の維持・存続

通勤、通学、通院など町民の日常生活の足として、欠かせないJR室蘭線。かつては、南空知の文化、経済を支える重要な生活動脈でしたが、今、その鉄路のあり方が問われています。

## 交通の要衝

栗山駅は、南空知の輸送基地として農産物をはじめ、酒類や工業製品、また、旅客の往来が多くありました。人口が約2万2800人であった昭和43年の業績では、札幌鉄道管理局管内390駅の中で、乗降数が23位にランクされるまでに発展していました。

かつての人口規模とは異なるものの、現在も岩見沢市を中心とした通勤、通学、通院など日常生活の「足」やイベント時における町外者の移動手段として利用され、また、災害時の緊急輸送や道北、道東方面からの貨物輸送の面でも不可欠な

路線となっています。

このような中、JR北海道は平成28年11月、道内全路線の約半分にあたる1237キロの10路線13区間を「単独維持困難路線」として公表しました。

JR室蘭線が単独維持困難路線として公表されて以降、南空知の沿線自治体である岩見沢市、由仁町、栗山町はともに「地域にとって必要」という共通認識に立ち、また、今後は胆振管内の苫小牧市や安平町とも、北海道を通して情報交換を行いながら、北海道の公共交通ネットワーク全体におけるJR室蘭線の役割や利用促進の方法などの話し合いを重ねていきます。

## 利用実態調査から分かったこと

7月に岩見沢市、由仁町、栗山町の3市町は、連携してJR室蘭線の利用実態に関する調査を行いました。

### 調査実施日

7月19日(水)

### 調査対象

旅客列車全便（上下各7便）の利用者

左の表1は、栗山駅を発車する苫小牧行きと岩見沢行きの乗降客数を示したものです。朝の通勤、通学の時間帯と夕方の帰宅の時間帯の利用が多く、それ以外の時間帯とで大きな差が見られました。

【表1】栗山駅の乗降客数

栗山駅発	乗車人数	降車人数
6:21	4人	0人
9:26	0人	4人
13:15	0人	5人
15:29	3人	3人
16:56	4人	49人
20:02	3人	65人
22:20	0人	10人
計	14人	136人

【岩見沢行き】

栗山駅発	乗車人数	降車人数
6:32	40人	4人
7:14	95人	5人
9:38	8人	2人
14:28	4人	1人
18:28	3人	4人
20:48	4人	3人
22:32	1人	0人
計	155人	19人



朝夕は通勤、通学で多くの町民が栗山駅からJRを利用

次に、調査を行った各駅の乗降客数（表2）では、岩見沢駅の利用が最も多く、次いで栗山駅、由仁駅、栗沢駅の順となっています。

【表2】JR室蘭線各駅の乗降客数

駅名	乗車	降車	計
岩見沢	320人	331人	651人
志文	15人	15人	30人
栗沢	51人	48人	99人
栗丘	4人	4人	8人
栗山	169人	155人	324人
由仁	65人	73人	138人
古山	15人	14人	29人
三川	37人	27人	64人
計	676人	667人	1,343人

乗降客を年代別（下図1）にみると、20代までの若い世代の利用が全体の8割を超えており、特に利用者数の多い朝の岩見沢行き、夕方の苫小牧行きで、この傾向が強くなっています。また、岩見沢駅を除く各駅で乗降客133人に対して行った聞き取り調査からは、JR室蘭線の主な利用客は、由仁町や栗山町、栗沢地区から岩見沢市内の高校などへの通学を目的とした学生であることや、三川駅（由仁町）と追分駅（安平町）をまたいだ移動は、極端に少ないことがわかりました。

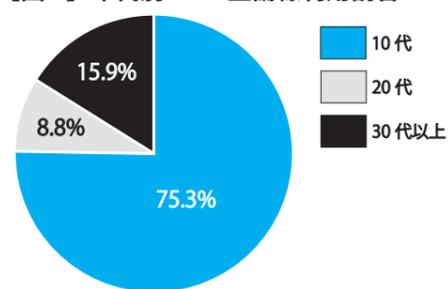
## 鉄路を残すために

今後、町では沿線自治体などと連携して、利用促進などの取り組みを進めていくことにしています。沿線を「残す」ためには、沿線に暮らす皆さんのご理解とご協力が不可欠です。JR室蘭線への想いや利用促進策に関するアイデア・ご意見など、皆さんの声をお寄せください。

### 提出方法

郵送、ファックス、メールまたは持参（様式は問いません）

【図1】年代別のJR室蘭線利用割合



## JR室蘭線を学ぼう!!

JR北海道が、単独維持困難路線として位置付けているJR室蘭線の状況を一緒に学びませんか。詳しい内容はお問い合わせください。皆さんのご来場をお待ちしています。

【日時】12月20日(水) 15:00～

【場所】岩見沢市自治体ネットワークセンター

(4階) マルチメディアホール (岩見沢市有明町南1)

【問い合わせ】町経営企画課地域政策グループ ☎73-7502

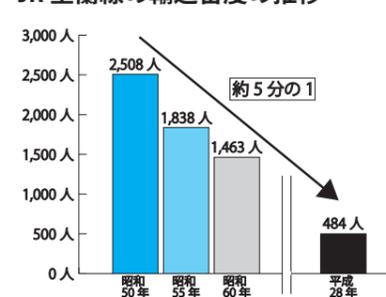
### 【連絡先・問い合わせ】

〒069-1512  
栗山町松風3丁目25  
2番地  
栗山町経営企画課地域政策グループ 宛  
☎7502  
FAX 3179  
メール  
tikiseisaku-g@town.kuriyama.hokkaido.jp

JR室蘭線（沼ノ端～岩見沢）の概況  
（駅数：13駅、営業キロ数：67.0km）

	平成27年度	平成28年度
輸送密度	500人	484人
営業係数（100円の運賃収入を得るためにかかる費用）	965円	1,137円
営業収支	▲1,117百万円	▲1,267百万円

JR室蘭線の輸送密度の推移



### ※単独維持困難路線

JR北海道が収益の悪化などにより、今までのように路線を維持していくことが難しいと位置付けた路線で、輸送密度が200人以上2,000人未満の区間は、費用負担なども含めて鉄道を維持する仕組みを地域と相談したいという意向が示されている